

国際科を対象とした、オンライン英会話プログラムが スタートしました

国際科（男女共学）では、多彩な語学実習プログラムを通じて「英語で発信する力」と、各教科をさまざまな角度から考える手法を取り入れ「探究する力」を育てています。

2022年5月12日（木）より、今年度のオンライン英会話プログラムがスタートしました。1・2年生を対象に月3回程度、放課後に各自のiPadを使用し、フィリピンの語学学校英語教員とマンツーマン英会話を実施します。



事前ガイダンスで接続方法を確認した生徒たちは、すぐにビデオ通話アプリを立ち上げ会話を始めます。1回あたり25分の実施時間ですが、その間の会話は全て英語で行います。



開始前に接続方法や進行について確認する様子



場面に合わせた表現を学ぶため、教科書を参考にします



身振り手振りも使いながら考えを伝える生徒たち

初めは緊張した様子の生徒もいましたが、だんだんと会話をするということにも慣れ、教科書の内容や住んでいる街をテーマに楽しそうに会話をしていました。

神戸国際大学附属高等学校では、このオンライン英会話を来年2月まで実施します。

また、2023年1月には、英語で自己の思いを積極的に発信する姿勢と態度を養うことを目的に、福島県にあるブリティッシュヒルズにおいて英語研修を予定しています。



マンツーマンのため、一人ひとり先生が異なります

■参加生徒コメント

オンライン英会話は初めてでした。楽しかったですが、聞き取れても答えるのが難しかったです。伝えたい表現が出てこないことがあったので、慣れてスムーズに会話できるようになりたいです。（1年生・女子）

去年学校で実施したので慣れているので、はっきり発音することを意識しました。1対1で会話するのは楽しいです。もっと会話に慣れて、好きな漫画の話などをしてみたいです。（2年生・男子）

自己紹介から始まって25分が短く感じました。ですが、伝えることは難しかったので、家でも練習したいと思います。「今日楽しかったこと」など、普段の学校生活について話せることを目指します。（1年生・女子）



■担当教員コメント



外国語科教諭
国際科担当
糸賀 祐介

昨年、現2年生を対象に実施しましたが、今年度は1・2年生両方を対象に実施しました。オンラインとは言えマンツーマンで行う英会話であるため、生徒一人ひとりの発話量が多く、続けることで「英語で発信する力」がつくと考え実施しています。

昨年より記憶アプリ「Monoxer (モノグサ)」を使って、主に英単語の記憶定着をはかっています。覚えた単語や表現をすぐに使うことで、英語を使う楽しみを感じ、自信をもって会話できるようになって欲しいです。

